

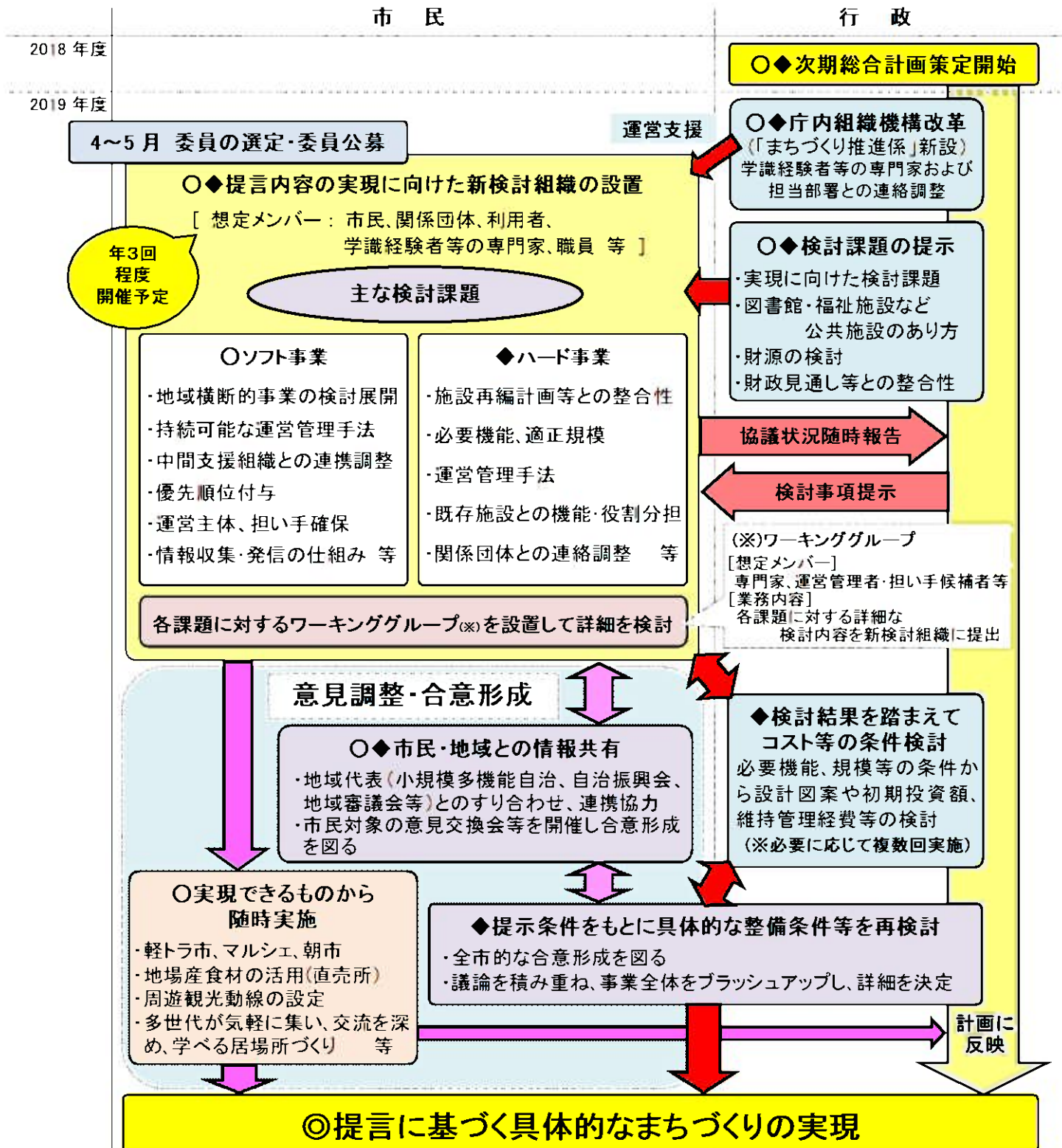
まちづくり検討会議からの提言実現に向けた今後のスケジュールについて

まちづくり検討会議からの提言実現に向けた課題の解決にあたっては、新たに設置する検討組織での協議検討内容を踏まえながら、実現可能性の高いものから優先的に取り組んでいきます。

まずは、ソフト事業のうち、既に実施されている取り組みの整理統合・連絡調整・連携協力・ブラッシュアップなどを行い、各地域および全市横断的なまちづくり事業を展開し、市全体の活性化を図ります。

また、ハード事業については、既存施設の機能や役割等を検討しながら、真に必要な機能、適正規模、インシャルコストやランニングコストの検討・試算などを行い、日常的に市民が気軽に使えて、将来負担の少ない、理想的な居場所づくり・まちづくりを目指して、次期総合計画に盛り込んでいきます。

《提言実現に向けたスケジュール》 (○ソフト事業、◆ハード事業)

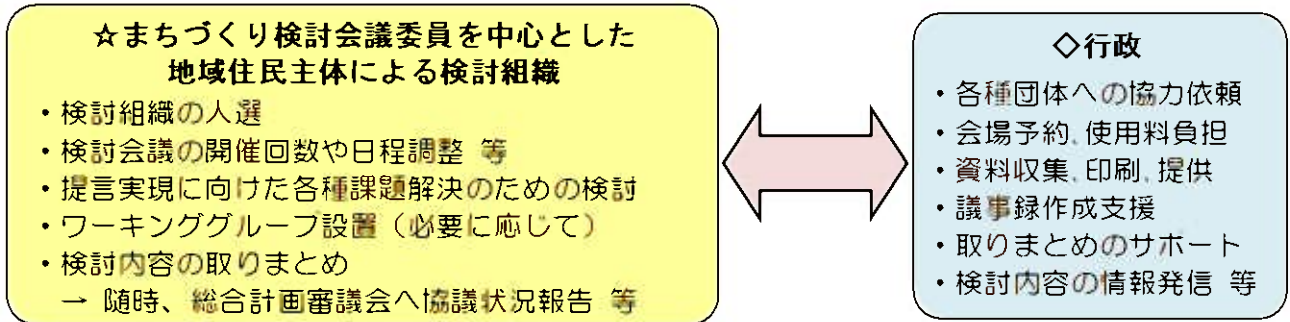


◎まちづくり検討会議からの提言実現に向けた新検討組織体制の構成（案）

- ・ 全市的な観点 → 総合計画審議会で検討
- ・ 地域的な課題 → 新検討組織で実現に向けて再検討

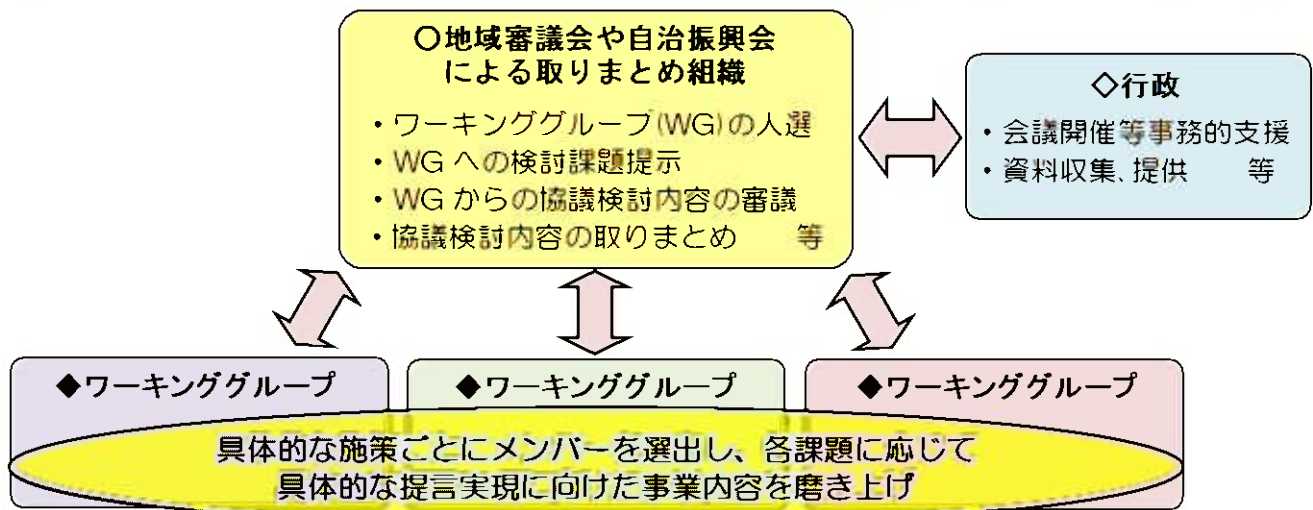
案① 地域住民主体の新検討組織

まちづくり検討会議委員等の地域住民が主体となり、ワーキンググループの設置など、提言実現に向けた課題検討組織の設置・運営等を担う。行政は円滑な運営及び協議検討をサポートする。



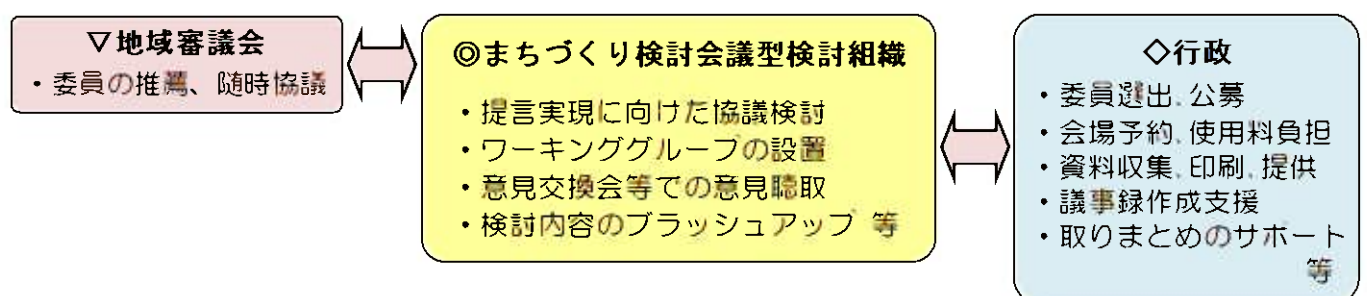
案② 地域審議会主体の新検討組織

地域審議会や自治振興会などが主体となって具体的な施策ごとに担い手となるメンバーを選出し、ワーキンググループ(WG)を設置。WGの協議検討内容を審議し実現に向けた取り組みを行う。



案③ 行政主体の新検討組織

行政が主体となって、施設再編計画等の各種計画との整合性や全市的なバランス等を考慮しながら、提言実現に向けて現実的で持続可能な施策や財源等の検討を行う。



まちづくり検討会議からの提言実現に向けた課題整理（市全体）

<市全体をみて検討すべき課題>

1. 図書館や高齢者福祉施設のあり方

今後の人口見通しを踏まえた、中央図書館とその他の図書館の機能分担、老人福祉センター等の高齢者福祉施設のあり方、提供すべきサービスの適正な規模の検討（行）

2. 市全体を捉えた必要な機能・規模

何を残し、何を活かし、何を求めるのか、市全体のバランスや将来展望を踏まえた上で、必要な機能と規模の検討（行・民）

3. 財政的課題

今後の財政見通しを踏まえた施設整備や維持管理に充当できる金額の算定（行）

<共通して検討すべき課題>

1. 各種計画との整合性

公共施設再編計画等、各種計画との整合性の検討（行・民）

2. 効果的な運営手法及び整備財源

官民連携による公共サービス提供手法である PPP (Public Private Partnership) や PFI (Private Finance Initiative: 公共施設等の維持運営管理に民間資金やノウハウを活用した効率的で効果的な民間主導型の公共サービス提供手法) 等の導入検討、国や県の補助金の活用、有利な起債、クラウドファンディング・幸せ未来基金など整備財源の検討（行・民）

3. 施設管理者や事業運営者と事業実施費用

誰が施設管理を担うのか、誰が事業を実施するのか、民間事業者や地域団体、行政、官民連携等、実施主体と維持管理経費の負担者を決定（行・民）

4. 小規模多機能自治との連携

交通弱者対策（デマンドバス・タクシー等）を含めた小規模多機能自治との役割分担・連携強化（行・民）

5. 既存施設の活用と民間事業者との調整

「居場所づくり」に今ある施設を活用するなど、既存施設の利活用を検討（行・民）

6. 既存事業の活用と連携

既に市内で実施されている事業や民間事業者が実施している事業の活用・連携については、役割分担とともに民業圧迫にならないよう配慮（民）

7. 優先順位

複数の事業提案がある場合、優先順位を決定（民）

8. 役割分担

ソフト事業の主体は市民、行政は支援、協働による事業実施の場合、責任の所在を明確化（行・民）

まちづくり検討会議からの提言実現に向けた課題整理（福野地域）

〔ハード事業：新たな施設整備や既存施設の改修等〕

○ 新たな複合交流施設の必要性

地域内・市内・近隣自治体類似施設との機能分担・住み分け

- ・ 人口減少を踏まえた施設（規模・コスト・必要性・ニーズ把握など）のあり方（行）
- ・ 運営主体の選定と維持管理経費等の財源確保（行・民）
- ・ 地域内の類似施設との役割分担、必要な機能の詳細検討（民）

○ 他地域とのカラーの違い・強調すべき具体的内容（民）

○ 「まちの優位性」を活かした新しい核となる拠点づくり

- ・ 財源確保、維持管理経費調達、運営費負担等の方向性（行・民）

○ まちづくり構想「まちづくりのコンセプト」検討・策定

- ・ 駅周辺の整備：関係者との協議による役割分担の明確化（行・民）

○ ファブリカ跡地の現状把握・利用方針・PPPの可能性、駅前周辺・庁舎跡地の利活用

- ・ JA跡地・民間用地の利活用には官民連携が不可欠、民間企業の考え方を確認（行・民）
- ・ 庁舎跡地の民有地貸し手の意向確認（行）

○ 駅から高校までの動線整備

- ・ 歩行者専用路等に係る整備財源等の検討（行）

○ 放課後児童クラブのあり方

- ・ 現状は手狭か？ 必要性の確認（行・民）
- ・ 将来的に必要な規模、適切な場所の検討（行・民）

○ 芝生広場の利用目的は？

- ・ 類似施設（猿が辻公園など）の利活用の検討（民）

〔ソフト事業：新たな制度の創設や手法の展開等〕

○ リノベーションスクール・リノベーションまちづくりの実践

- ・ 運営主体と手法（民）
- ・ リノベーション教育、人材確保・人材育成を通じた「人づくり」事業の目的を明確化（行・民）

○ 空き家・空き店舗の活用ニーズ・利活用事例の把握（行・民）

- ・ 運営主体と手法の検討、コーディネーターの養成（民）

○ ESD教育の実現

- ・ 小中学校・高校・大学などの教育機関・地域との連携、運営主体と手法の検討（行・民）
- ・ 小学校PTA向け「南砺教育」など、既存事業の充実・展開の検討（行・民）

○ 若い世代の「住む」につながる魅力とは？ 求められる具体的な内容（民）

《すでにある取り組み事例》

【城端地域】

- ▽ベタンク、体操・ヨガ教室、囲碁サロン等のサークル活動
- ▽軽トラ市・マルシェの開催
- ▽「まちのえき」の開設

【井波地域】

- ▽なんとポイント・市内共通買物券の活用
- ▽地場産野菜直売所の開設運営
- ▽農産物オーナー制度
- ▽宿泊・民泊斡旋紹介アプリの活用(Airbnb など)
- ▽観光案内拠点(交通広場の活用)
- ▽国際木彫刻キャンプ・キャンプ作品まちなか展示
- ▽木彫刻スマホスピーカー等の制作体験
- ▽地場産食材の活用と伝統料理教室等の事業展開
- ▽彫刻パーク・体験拠点、アーツスペース、彫刻師養成事業

【福野地域】

- ▽芝生広場（猿が辻公園）
- ▽空き家改修交流施設
- ▽市施設の空き室活用
- ▽福野家守舎の取り組み（NishichiMarche など）
- ▽オーガニック農業、耕作放棄地での農業体験
- ▽生涯学習としての ESD 教育の研究・検討
- ▽「地域課題解決」の具体的なカリキュラムの検討・実践 [福光高校の事例]
- ▽地域の伝統文化（福野織など）の PR
- ▽エコ住宅ゾーン整備

【福光地域】

- ▽社会福祉協議会主催相談事業
- ▽中間支援組織の取り組み（「ふくみつつ」「ほっこり南砺」「にほんご広場なんと」「エコトママン」等）
- ▽女性起業塾などの取り組み（チャレンジショップ）
- ▽棟方志功の足跡巡り（ウォーキングコース）設定 <棟方徑道めぐり>
- ▽空き家対策
- ▽地元特産品提供・六次産業化（ワイナリーなど）
- ▽朝市（福社会館周辺）
- ▽中央図書館の活用（コミュニティカフェ・相談窓口・市民活動支援拠点）
- ▽まちづくり会社の支援
- ▽あることカレンダー等の作成運用
- ▽郷土学習の実践
- ▽里山職業セミナー・里山マイスター事業

1. 福野地域の現状と課題

◎福野地域の現状

[強み]

- 保育園、小学校、中学校、高校、体育館、文化創造センターヘリオスなどが文教ゾーンとして中心市街地にまとまっており、先人である先輩諸氏の思いと苦勞が感じられるまちづくりがなされている。
- 庁舎、福野体育館、B&G 海洋センターが徒歩圏内にあり、災害時の一体利用が可能であり、想定最大規模の洪水浸水想定においても、災害のリスクが少ない。
- 砺波土木センターなどの県の出先機関や川田工業、コマツNTC、三協アルミなどがあり、市外からの通勤者も多く、工業のまちとしての発展が期待されるほか、市内で最も人口減少率が少ない。
- 日本ユネスコプロジェクト未来遺産「福野夜高祭」や「福野縞」などの伝統文化や産業
- スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールドなど毎年定期的に開催される大型行事の拠点であり、年間利用者数が市内で最も多い(6万人超)福野文化創造センターヘリオスがある。
- 南砺市最北に位置し、砺波・小矢部両市に接しており、将来の広域連携にも地理的に有利。
- 普通科と専門科を併せ持つ県立高校がある(2020年4月統合)

[弱み]

- 地元愛(福野愛・南砺愛)がうすい。
- まち中の空き家、空き店舗、未利用地(跡地)問題
- 昼間人口と夜間人口の差が大きい
- まち中に老若男女問わず気軽に集える場所が少ない
- 親子が安全安心して遊べる場(屋内・屋外遊具等のある遊び場)が少ない。
- 人口は転入より転出が上回る状態が続いており人口減少が進んでいる。

◎福野地域の課題

- ▽人口減少や少子高齢化にともなう活力の低下
- ▽人口流出を食い止める
- ▽空き家、空き店舗、未利用地の利活用
- ▽JR 福野駅の周辺整備
- ▽公民館機能の受け皿の役目を果たしてきた福野産業文化会館(昭和 51 年建築)が老朽化し、耐震補強もされていない。
- ▽駅周辺に高校があるが、高校生がまちなかで買い物や飲食をしていない。
- ▽駅から高校までの通学路に歩道がなく、道幅が狭い。
- ▽駅舎は冬寒く、夏暑い。駐車場・駐輪場からのアクセスも悪く危険。
- ▽中心市街地の人口減少が著しく、地域コミュニティーの崩壊や、伝統ある祭りや文化が失われてしまうという危惧がある。
- ▽若者が滞在しない地域にまちの未来はない。高校生が他の世代と交流が出来る勉強、飲食など長時間に渡り滞在できる施設の整備、安全に通学するための導線の整備が必要。
- ▽人口減少の進行によるまちの空洞化、組織の弱体化。(地域課題解決のために必要な資源の不足。安心・安全な地域、住みよい地域が失われ、ますます人口減少がすすむ現状)

2. 福野地域が目指す「まちづくりの方向性」

- ① まちの優位性を活かした新しい核となる拠点づくり
- ② 駅周辺・空き家・空き店舗・空き地の活用
- ③ 人口減少を見据えた次世代に繋がる持続可能なまちづくり

3. 福野地域の方向性実現に向けた具体的な取り組み

① まちの優位性を活かした新しい核となる拠点づくり

<目指すべき姿>

日常的に幼児から高齢者が気軽に集える地域活動拠点として、まちづくりの新たな核となる複合交流施設の新設。

<方策・具体的な取り組み>

- 地域活動をはじめ、幼児から高齢者まで気軽に集える複合交流施設の新設
[複合交流施設に求められる機能・スペース]
 - ・小規模多機能自治の拠点として集会室、会議室 3~4、事務局フロアほか
 - ・放課後児童の学習スペース
 - ・高年齢者等の交流空間スペース
 - ・テナントスペース、芝生広場
 - ・行政センター等公共スペースなども検討
 - ・幼児の遊べるスペース
 - ・趣味の会等のオープンスペース
 - ・夜高、福野織の PR スペースなど

[場所]

- 小学校・アルカス・おひさま保育園に近いファブリカ跡地が適地。合わせて住宅開発も検討。
- 福野庁舎跡の借地を速やかに返還し、残りの市有地を活用することも検討。

<地域（自分たち）で取り組むこと>

- ・地域ボランティアが施設利用をサポートし、賑わいの創出を工夫する。

[持続可能な運営方式]

- PPP方式やPFI方式(※1)の可能性の追求
- コンビニやテナント使用料などの収益による運営費の縮減

<この取組に必要な支援（行政に望むこと）>

- ・市主体で立地適正化計画を策定、整備
- ・内閣府地域再生事業の活用も検討
- ・民活の導入で持続可能な施設を目指す

<この取組によって解決できる課題>

- ・公民館機能の受け皿の役目を果たしてきた、福野産業文化会館の代替施設が確保でき、かつ小規模多機能自治の拠点施設としても利用できるほか、福野体育館を利用している放課後児童の学習スペース(アルカス不足分)の確保もできる。
- ・公共施設再編計画に基づく、福野産業文化会館、福野中部公民館、ひびきの家などの廃止
- ・幼児から高齢者までが交流できる新たな核となる拠点施設でまちを活性化

(※1) PFI(プライベート・ファイナンス・イニシアティブ) 公共施設等の設計、建設、維持管理及び運営に、民間の資金とノウハウを活用し、公共サービスの提供を民間主導で行うことで、効率的かつ効果的な公共サービスの提供を図るという考え方。公民が連携して公共サービスの提供を行うスキームを PPP(パブリック・プライベート・パートナーシップ：公民連携)と呼ぶ。PFIはPPPの代表的な手法の一つ。

② 駅周辺・空き家・空き店舗・空き地の活用

<目指すべき姿>

まちの中心にある空き家や空き店舗、空き地などの地域課題を、すぐに使える地域資源として活用した、まちの使い方を変えるコンテンツ作りを通した「リノベーションまちづくり」

<方策・具体的な取り組み>

- 福野まちづくり構想の策定支援及び各種勉強会・リノベーションスクールの開催支援
- まちの中心にある空き家、空き店舗を利用したまちの使い方を変えるコンテンツ(中身)作り 「リノベーションまちづくり」
- 駅舎内、高校への動線、駐車場、ロータリー、J A跡地も含めた、まちの玄関口となる駅前を整備
- 庁舎跡地など広大な空き地を使ったエコタウン、緑化・交通規制などインセンティブ(人々の意思決定や行動を変化させるような要因)のある新しいかたちの宅地開発

[場所]

J A跡地も含めた駅前、まちなかの空き家・空店舗、福野庁舎跡地、ファブリカ跡地等

<地域(自分たち)で取り組むこと>

- ・民間主導によるPPP(公民連携)の推進
- ・若い世代が活躍しやすい環境づくり
- ・空き家、空き店舗、空き地のまちの資産としての利用促進
- ・コミュニティーの再形成

[持続可能な運営方式]

PPP(公民連携)の手法を活用
クラウドファンディング(※2)の活用
地域ファンド(※3)の設立

<この取り組みに必要な支援(行政に望むこと)>

- ・高校も含めた駅前開発の検討チームの設置
- ・宅地開発のための法整備や規制緩和

<この取り組みによって解決できる課題>

- ・人づくりへの投資により持続可能な地域へとシフトする。
- ・空き家、空き店舗などを活用したコンテンツをスピーディーに作るができる。
- ・まちの玄関口である駅前を整備することで、安全性と利便性を高め、まちの魅力を高めることができる。

(※2) 不特定多数の人がインターネットなどを介して他人や組織に財源提供や協力を行うこと

(※3) 自治体や地銀などが出資して作る投資を目的とした組織のこと

③人口減少を見据えた次世代に繋がる持続可能なまちづくり

<目指すべき姿>

- ・20年、30年先を見据え、若い世代にとって魅力ある地域(南砺市を「住む場所」として選択してもらうまちづくり施策の推進)を構築する。
- ・持続可能なまちづくりを進める主体的に考え行動する市民を育てる。

<方策・具体的な取り組み>

- 生涯学習を通じて持続可能性のある地域へ。次世代に繋がる市民意識の醸成へ向けて「教育」分野に特化した事業を展開し、人づくりを推進する。(ESD教育の推進(※4))

- ・小、中学生：地域の良さに触れ地元愛を育む機会の創出（郷土教育）
- ・高校生、大学生：地域課題解決に主体的に関わる機会の創出
- ・若者：まちづくりへの興味関心をもち、活躍しやすい環境づくり
- ・子育て世代：生活・子育てのしやすい地域、まちづくりへ参画しやすい環境づくり

※背景補足

意見交換会で地域の方から「県立高校を擁する地域」という特色をもっと生かしてはどうかというご意見を多くいただき、教育の分野でも特に高校生にフォーカスをあてることを中心に具体的な取り組み案を検討。実際に福野高校生210名へアンケートを実施し、結果を踏まえて高校側とも意見交換を行った。



○地域課題を考える事業の立ち上げ

- ・高校の授業(総合・地域学習)の一環として取り組む。
- ・夏休みを利用しスクールを開講(実施イメージ)
 - ①テーマとなる課題を提示し、高校生からアイデア提案してもらう。
 - ②アイデアコンテストの実施、優秀なアイデアを表彰
 - ③アイデア事業化

※テーマ案：複合交流施設・空き店舗・空き家等の活用検討、各種イベントの活性化アイデア出し、地場産品を使った商品開発など

<地域(自分たち)で取り組むこと>

- ・民間主導によるPPP(公民連携)の推進
- ・多様な人々(子供から大人まで)が参画しやすい環境づくり
- ・空き家、空き店舗、空き地のまちの資産としての利用促進
- ・コミュニティーの再形成
- ・事業の企画・運営

<この取り組みに必要な支援(行政に望むこと)>

- ・【産学官民連携】
 - 事業実施の運営母体「まちづくりコンソーシアム(協議会)」設立(下記団体等で有機的に構成される組織体系の確立)
 - 自治体(県、南砺市など)、教育機関(小・中・高校・大学など)、産業界、地域自治会、各種イベント等実行委員会、地域企業、地域個人
 - 人や団体、活動をつなぐキーパーソンの存在が必須
- ・事務局機能等のバックアップ
- ・開催場所等設備の整備
- ・授業開催運営補助(予算化)
- ・アイデアを事業化するための予算

<この取り組みによって解決できる課題>

- ・様々な立場の意見を取り入れる仕組みを構築し、まちづくりへ興味関心を持ってもらうことで、地域への参画意識を高めることができる。
- ・将来世代にとって魅力的な地域づくりに貢献することができる。

(※4) ESD(エデュケーション・フォー・サステイナブル・デ・バローアブル)持続可能な社会づくりの担い手を育成する教育

福野地域審議会

- 各地域、特徴があり、それぞれ将来的なことを考えながら検討されている。福野地域についてもいろいろ意見が出ているが、今後の進め方について、今回、新年度から新たな係を配置し努力していきたいとある。しかし「できることからする」というのはあまりにも曖昧で、来年から庁舎が統合されて新しい庁舎でいろんなことが進められるのに、福野地域とこの福野庁舎がどのようになるのか具体的なことがわからない。もっと具体的に、福野地域からこういうことを進めていきたいという話を聞かせてほしい。先日の意見交換会で委員のみなさんからお聞きした中で、福野地域での交流施設の新設とか、民間活力による施設の運営などが強く押し出されていた。確かに建設的な意見で、進んだ考え方と思うが、今日の資料を見ても、それから日が経過しているが具体的な話はない。もっと具体的な突っ込んだ話が聞ければ良いと思う。次回の審議会開催まで相当期間があり、民間活力によって交流施設がどうなっていくのか、もっと具体的な話を聞かせてほしい。
- 分かりにくい点もあると思うので、まちづくり検討会議のメンバーとして説明させてもらう。福野地域のポイントは3つあり、1つは複合交流施設の整備ということ。これは今まで公民館の役割を果たしていた産業文化会館が老朽化し、これから小規模多機能自治を進めていく上での施設がないということで、複合交流施設を作ってほしいというのが原則。それだけではなく、放課後の児童が集うアルカスの補完として、放課後の児童の学習スペースを提供する。あるいは、これから高齢者は地域で支えあうという体制づくりが求められていることもあり、高齢者の集える場にもなる。そういった諸々の要素を合わせた複合交流施設、要するに児童からお年寄りまで交流できる施設を作ってほしいというのが一点。2つ目は福野駅周辺の整備ということ。提言書の中にいろいろ書いてあるが、福光高校は福野高校に統合されていく。そこで福野駅周辺の状況を見ると、駅から福野高校まで歩いていく学生の歩行状況が非常に悪く、また、福野駅の待合スペースが十分ではない。それから、福野駅前の駐車場が狭くてわかりにくい。それらのことを含めて、福野駅の周辺整備を考えてもらえないか、というのが2点目。3つ目は、これは若い方々からの提案であったが、地元住民、民間主導によるリノベーションスクールの開催の支援をお願いしたいということ。まちづくりの交渉や計画策定、勉強会、それらを公民連携で開催し、若い方から実践者を教育していく。その中から民間、あるいは企業が実践できるシステムを構築していく。そういったリノベーションスクールの開催の支援。例えばそれがうまくいけば、そういったいろんなことを整備していく資金は地域が負担していくとか、できるかどうかかわからないが、クラウドファンディングを活用しながら、そういうことも実践できるまちづくりをしていく。まちなかの空き家・空き店舗対策、それから複合交流施設の管理運営についても、リノベーションスクールの開催と連携しながら運営していくという形ができればよいと思っている。まとめると、複合交流施設の整備、福野駅周辺の整備、地元あるいは民間主導で進めていくリノベーションスクールの開催の支援。そして、若い方たちとそういったまちづくりを進めていくという3つのポイントである。
- 具体的な話はこれからで、今、庁内内部でこういった計画を実現していくにはどういったことをクリアしていかなければならないのか、課題を洗い出している。それを通して課題をどう乗り越えていくかということをお返しし、意見交換をさせてもらい、どういうふうに進めていくか、どういった方々に協力してもらおうか、どういった手法で行っていくか、相談の上、次年度から実現に向けて進めていきたいという考えである。今日は4つの地域でこういったお話があったという情報共有と、今後こういう方向で進めていくということをご理解いただきたい。
- 来年が現在の総合計画の最終年度になり、次の総合計画を策定する準備をしている。その中で何年度に何々が入るかどうか、その辺を今詰めていかなければならないという段階である。福

野地域の提言にある、PPP・PFI・公民連携については、すぐにでも勉強会をしようということ
で国の総務省やいろんなところと検討しているが、そういった補助金などがなくとも、どうい
ったサポートをするか検討している。そういったリノベーションスクールも含めて、公民連携
というか、民間主導と公共の間で整理をしながら同時進行で進めていくということ。総合計画
の中に位置づけるということも含めて、今後取り組んでいきたいと思っている。昨年の提言発
表から大分進んでいるだろうとのことだったが、現在、整理し、もう一回検討会議のメンバ
ーとやりとりすることを考えている。地域によっては、この検討会議の内容と、住民の皆さんと
の合意形成がうまくいっているところといていないところがあるというのも現実で、市とし
ては地域ごとの合意形成と市政全体のバランスの中での合意形成ということも検討していく
必要があるので、ご理解いただきたい。

●総合計画の中での順位も含めてということか。総合計画となると実施計画の中には予算も入れて
いかなければならないので、当然その際には順番も検討していかなければならない。

●庁舎をなくすのを優先するというのが原則なのか。

○今ここで、どれを1番にするということは言えない。当然バランスも含めて検討する。

●後の議題の病院の問題でも、福光に統合することを先行されるわけであるが、廃止を先行してそ
の後どうするか順番を決めて、いつになるかわからないということでは不安が残ると思う。例え
ば小規模多機能自治についても、福野地域の自治振興会では行政センターがなくなったら大変だ
ということで、各自治振興会では人口減少の抑制を進んでやっていこうとしている。統合後の庁
舎について、城端や井波はいろいろな有効利用案を出しているが、福野庁舎はこれだけの資産で
ありながら、2階以上は全く使われなくなる。庁舎の維持には大変お金がかかるわけなので、で
きるだけ早く地域が要望していることを選抜するという要望を出したい。

●大きな拠点づくりは当然のことだが、それに付随して、実際に福野高校への駅からの路線、これ
については実際に歩いているのを見ると、線路を慌てて渡る高校生が結構いるので、朝晩の登下
校の時間になると、線路を渡るのは大変危険となっている。もう既に高校は集約されるというこ
となので、これは県の支援もいると思うが、是非高校生に怪我のないよう整備してもらいたい。
というのは、何年前になるが、登校している学生が列車に跳ねられて大怪我したという事例が
ある。是非その辺りを踏まえて事前に対応を考えてもらいたいというのが一点。それともう一点、
高瀬西の福光と井波をつなぐ道路について、この間この道で人身事故が起きた。なぜあんなと
ころで起きるのかと思うが、あの道は福光の方から来ると途中まではやや広いが、安清という地域
から急に狭くなるように感じる。それからずっと井波の方に向かって行くと旅川という橋を越え
るが、あそこがS字になっている。特に冬場は凍結して非常に危ない。あそこはそんなに大型ト
ラックは通らないが、とにかくカーブは見通しが悪い。あの県道をなんとかしないといけない。
福光と井波を結ぶバイパスは皆さんあの道を通るので、通勤時間は1時間足らずとはいえ車が
大変集中する。実際にあの辺りを見て、改善するよういろんな方法を考えてほしいと思っている。

○高校の通学路の安全確保については、検討会議でも十分に議論されたが、JRとの兼ね合いも
あるので、その辺も含めて早急に検討を進めていきたいと思っている。また、高瀬西の道路に
ついては、まちづくり検討会議の中には入っていないが、担当には伝える。

●駅裏の歩行路線の話について、議会での発言によると駅裏には工場があり、除雪にもお金がかか
り、歩行動線を作るのには莫大なお金がかかるというが、計画も何もできていないのになぜ莫大
なお金がかかるのか不思議に思っている。駅裏・駅前の高校生の安全については是非考えてもら
いたい。また、高校生の居場所というか、今高校生がこの福野地域に居場所がないといっている
のを聞いている。そういうことも考えて交流センター的な場所、高校生も集まれるような場所を
考えてほしいと思う。

○駅の裏側に、駅を渡って下りられる道を作っていくという話にはまず一つの関門があり、例え
ば市で改札を設けるということになると、JRとの協議では改札を設けるには何年もかかるとい
うことが分かっている。今回は4月とか5月からとかすぐにやっつけていかなければならないこと

を、まずはやっていくということを申し上げた。当然、駅の裏も表も活用できるようになれば、そのときはさまざまなやり方が考えられると思うが、それはこの先何年間か相当時間がかかると思う。福野高校は2クラスから100人近く増えるということなので、安全を確保するという点では、県にもいろいろと状況を説明し、まずは当然安全が一番大事だということで、進めていることを申し上げた。駅の周辺というのは100人ぐらいが電車が来るまでに時間をつぶせる場所があるというのは大事なことだと思うので、そういったことを民間の皆さんと検討していく。駐車場の入口が狭くてわかりにくいという点などは、全体の絵を描いてみる必要があるとあり、将来的な大きな構想というのはまた別の次元で進めていくというのが今の段階かと思う。

●福野庁舎は下に借地があると聞いている。そういうことであれば、来年庁舎の機能がなくなった後もずっと借地を持ち続けるというのは不自然で、他の3地域とは内容が違う。機能がなくなったら早く整理をして、残った市有地に複合交流施設を早く整備してもらおうというのが大事だと思う。そういうもろもろの条件を整理しながら検討してほしい。

○いろいろと地域ごとの順番を気にされることが多いと思うが、統合庁舎を実際にどうするのか、というところも具体的には決まってない。逆にそういったことと先程言われたスピード感をもってやらなければならないこともあるので、いろんな条件は理解しているつもりで、やっとならと皆で検討し始めたということで理解してほしい。